

「海の豊かさを守ろう」を目指した活動の取り組みについて

公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団 新潟市水族館マリニピア日本海



公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団（新潟市水族館マリニピア日本海）では、SDGs ゴール 14「海の豊かさを守ろう」を目指し活動に取り組んでいます。

当財団では、年に4回ほど近隣の海岸を清掃するボランティア活動を実施しています。これまで財団職員のみで行っていた清掃活動に加え、一般に方々にもご参加いただける機会を増やしました。これにより、ご家族連れ、近隣の学校の生徒のみなさん、企業の方々など多様な方々にご参加いただいております。

清掃活動の前に、海洋ごみやマイクロプラスチックに関するパネル解説を行っています。この活動を通して、参加者の皆様に海洋ごみ問題がより身近な課題であることを感じて頂けるよう普及啓発にも

力を入れています。

パネルでは以下の内容を解説しています。

- ・海洋ごみとは何か、どこから来るのか
- ・海洋ごみが生物に与える影響
- ・マイクロプラスチックとは何か
- ・今からできる環境活動

砂浜に捨てられたごみや漂着したごみが再び海に流れ出すことを防ぎ、プラスチックごみを長期間放置しないことで新たなマイクロプラスチックの発生防止に努めています。

海岸清掃活動を通じて、今後も海の環境を守ることに貢献してまいります。



パネル解説の様子



海岸清掃の様子



集積されたごみ

■ ワークショップなどイベントへの出展

令和6年度は、ワークショップへの参加や出張展示の機会が増えました。特に、普段海に触れる機会の少ない方や海の近くに住んでいない方にも海洋ごみ問題への関心を持っていただくため、体験型のプログラムを積極的に取り入れました。

具体的には、近隣の海岸で採集した砂を用いた「マイクロプラスチック探し体験」を実施しました。参加者の皆様には、少量の砂の中にも多数のマイクロプラスチックが存在すること、そしてその回収の難しさを実際に体験していただきました。

また、ミズクラゲの水槽とビニールごみが入った水槽を並べて展示することで、その類似性を視覚的に示しました。ウミガメがビニールごみを誤食していたことに関するパネル展示とあわせて、適切に処理されず海に流出したごみが生態系に与える影響について、考える機会をつくることを目指しました。

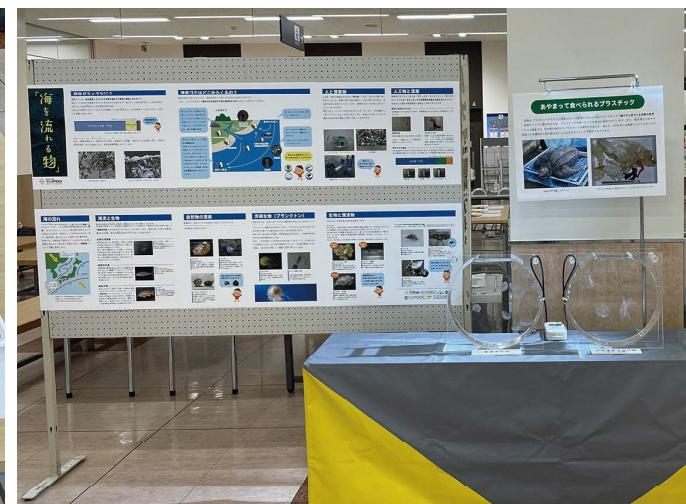
これらの活動を通して、身近な素材が生物や環境に与える問題について興味や理解を深めていただくことができました。



パネル解説の様子



マイクロプラスチック探し体験



ミズクラゲとビニールごみを見比べる展示

■ 取り組みの成果

海岸清掃やワークショップにご参加いただいた方の中には、もともと海洋ごみや環境問題に関心をお持ちの方が多く、意識の高まりを感じることができました。楽しみながら体験して頂くことで、参加者の皆様の海や環境に対する意識をさらに向上させるという大きな効果があつたと評価しております。